

しまなみへは自転車で行こう
シクロツーリズムしまなみ

第8回総会資料



シクロ・ツーリズム
しまなみ 

CycloTourisme Shimanami

2016 年度総括

「しまなみ海道」を有する今治市はサイクルシティ構想を掲げ、「自転車のまち」を目指している。こうした取り組みは全国各地の自治体で進んでおり、自転車や自転車に乗る人を改めて見直す傾向は加速している。自転車による島しょ部の活性化を目指す「しまなみスローサイクリング協議会」（2008（平成20）年）の設立等、法人設立前から住民参画型の活動を担ってきた当会には、全国各地からヒアリングに訪れてくれる。来訪者の関心が高いのは「自転車の休憩所“サイクルオアシス”」、旅人と住民をつなぐ「ガイドツアー」、そしてまちの玄関口に整備した「ゲストハウス“シクロの家”」だ。類い稀な地域の資産と言える「しまなみ海道」の存在はもちろん大きい、その魅力をいかし、集客につなぐ循環を生み出していくのは、住民の地道な地域づくり活動、官民一体となった交流・観光振興の賜物である。

「しまなみ海道」をいかした取り組みが自転車による地域活性化のモデルとなる中、自転車が走りやすい道路空間づくり、船やバスを活用した二次交通の再編はより充実が求められる。自転車インフラの整備がまちの安全空間創出、環境対策などにつながることで実感できれば、住民理解はより深まるだろう。自転車をレジャーやレクリエーションとして楽しむためのきっかけづくりも重要だ。そんな中、今期は自転車を日常生活に取り入れることによる健康有用性を検証するモニタリング事業を実施した。スポーツバイク乗車経験がない住民が一定期間、暮らしに自転車を取り入れる実証実験。健康づくり、コミュニティ形成へ効果を確認すると共に、住民からは自分の住むまちの身近な風景、主要道からそれた路地の魅力への気づきの声があがった。自転車まちづくりの可能性の視点が広がる価値ある事業となった。

ここに2016年度事業についてご報告いたします。ゆっくりと、ただ着実に自分の足で進む「自転車」。まさに、地方に求められる「自立」と重なるもの。道のりはありますが、自転車の持つ力に期待し、地域の連携強化を促したいと願っています。会員の皆様におかれましては、ご意見・ご批評いただきますとともに、引き続き、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

目次

2016 年度事業報告	1
Ⅰ 事業ダイジェスト	2
Ⅱ 事業詳細	17
2016 年度決算報告	73
2017 年度事業計画	78
2017 年度活動予算	84

2016年度 事業報告書

I 事業ダイジェスト

1. まちなか移住交流推進事業 詳細報告書p17～36

U・Iターン希望者がお試し居住できる「シクロクルー」をしくみ化。交流サイクリングツアー、空き家見学会、仕事づくり研修などを通して、まちなかへの移住・定住を支援。

① シクロクルーの受け入れ

コール相談→日帰り訪問→滞在旅行→「お試し居住」の段階的受入。
移住を検討するステージごとの支援。

② 交流サイクリングプログラムの企画・実施

港町として栄えた市内中心部、内海に抱かれた臨海線「はまかぜ海道」をめぐるツアーを企画・催行。



・お遍路サイクリング
4/26(日)
参加者:4名



・有機農業ツアー
5/22(日)
参加者:16名



・女子目線ツアー
6/12(土)
参加者:6名



・今治タオールツアー
7/9(土)
参加者:7名



・おんまぐ体感ツアー
8/6(土)
参加者:6名



・サイクリングアウトドア
10/9(日)
参加者:20名



・シーサイドライド
10/23(日)
参加者:29名



・簡単エクササイズ
11/20(日)
参加者:18名

③ まちなか移住講座の開催

働くこと、楽しむこと、学ぶことなど、今治市での暮らし方を住民から聞く講座開催。

●講座 2回 ●参加者 延べ20名

(1)有機農家をはじめよう！

講師：有機農業家 井上守氏

(2)地域交流をしよう！

講師：ふれあいの会



④ まちなかマップの製作

暮らしやすさを伝える情報マップを製作。機能やサービスが充実したコンパクトシティの価値を可視化。

●いまばり散策マップ「カフェ・朝ごはん」「晩ごはん」「おみやげ」 各2万5千枚の配布

⑤ 移住促進活動

首都圏、関西圏で開催される移住相談会や地域活性化に資するイベントに参加。今治市の魅力をPRした。

(1) 愛あるえひめ暮らしフェア(東京第1回) 8/27(土)

(2) 愛あるえひめ暮らしフェア(大阪第2回) 11/19(土)

(3) 愛あるえひめ暮らしフェア(大阪第2回) 2/18(土)



お試し居住できる拠点の活用が進んだ。個性が高い移住・長期滞在者のニーズに対応するしくみとして、首都圏、関西圏で開催された移住相談会では評価を得た。今後は「まちなか活性化サロン ふらっと（今治市中心市街地再生協議会）」が保有する今治市中心市街地の遊休不動産情報を提供する等、居住支援の取り組みを充実させることが求められる。

2017年度の取組 ★まちなか移住交流推進事業 **事業計画 p 78**

- ① お試し居住「シクロクルー」の受入・居住支援
- ② 空き家見学会
- ③ 交流サイクリングプログラム等の企画・実施
- ④ 仕事づくり研修会
- ⑤ 暮らし相談会

2. 今治市中心市街地再生事業「まちなかサークルツーリズム推進事業」 **詳細報告書p37～52**

市街地再生ビジョンに向け取り組んできた事業を継承するとともに、自転車先進都市の玄関口機能強化や1泊するまちなかのポテンシャルを創出する事業を行った。

① まちなか回遊促進事業

- (1) まちなか情報を紹介する回遊マップ製作 いまばり建築マップ 2万5千枚
- (2) 回遊イベントの開催

② まちなか誘客ツールの製作事業

- (1) 山間部とまちなかをつなぐマップ製作 たかなわマップ 2万5千枚
- (2) 外国人旅行者に訴求する資源を紹介するフリップ製作

③ 港・船の利用促進事業

- (1) 今治港の活用 サイクルボートしまなみ号運航 10/22・11/13・3/19 運行
- (2) まちなか滞在・回遊 サイクリングツアー開催



・レモン尽くしツアー
10/22(土)
参加者:25名



・シクロ女子旅
11/12(土)・13(日)
参加者:延べ22名



・タンDEM自転車まつり
3/18(土)・19(日)
参加者:延べ50名

④ JR 今治駅前での自転車安全運転宣言者の獲得

「サイクルトレインしまなみ号」乗車客へカフェ利用券発行。
まちなかを回遊するサイクリストへの安全啓発を展開。

「6人のシクロ・ツーリスト」、「サイクルオアシス」等、まちなかに集積する回遊ポイントを可視化できた。まちなか誘導ラインとなる「たかなわマップ」の発行により、まちなか誘客のツールも完成。今治港発着の「サイクルボートしまなみ号」や定期的なツアーにより、まちなかでの宿泊や回遊につながる事が目標である。

2017年度の取組 ★「地域限定旅行業」としてツアー開催 ★オアシス拡充 **事業計画 p 82**

3. サイクリングライフによる住民向け健康増進プログラムの開発

～地域資源を活用したしまなみアウトドアフィットネスプロジェクト～

詳細報告書 p 53～68

ブランド力ある「しまなみ海道サイクリング」による観光・交流振興を一步進め、地域住民の健康増進、社会参加を促進するプロジェクトチームを立ち上げた。サイクリングの健康増進への有用性を確認するため、モニターを公募し、3回の講座と3回のサイクリング体験への参加、日常生活での積極的な自転車乗車を促すパイロット事業を展開。事業を通して、自転車の健康増進有用性のデータ分析と啓発、自転車健康交流まちづくりの拠点整備を行った。身近な乗り物である「自転車を暮らしに」をスローガンに自然の中で有酸素運動であるサイクリング体験を中心とした住民向けのアウトドアフィットネスプログラムの開発につなげた。

① プロジェクトチームの結成と定期的な会合

協働先である愛媛県理学療法士会とパイロット事業やアウトドアフィットネスプログラム創出に向けた意見交換を行った。

② パイロット事業の実施

(1) モニター募集と決定

市内外から33名の応募があり、スポーツバイク経験（未経験者）、日常の運動頻度（低い者）を勘案し、24名（男性（10）、女性（14））を選考した。

(2) 事前評価・事後評価

「血液検査データ」の収集、気分プロフィール検査、新体力テスト等を行った。サイクリング乗車アドバイスも行い、日常的な自転車乗車を促した。

（同様の評価を(3)モニターへのプログラム提供 終了後も実施し、検証を行った。）

(3) モニターへのプログラム提供

モニターを対象に、月に1回のサイクリングツアーへの参加、月に1回の健康講座（運動・食事など）を実施した。



・サイクリング・アウトドアヨガ
10/9(日)
参加者:20名



・サイクリング・カルチャー
10/23(日)
参加者:21名



・食べて健康に(講座)
11/6(日)
参加者:14名



・サイクリング・ノルディック
11/20(日)
参加者:14名

③ パイロット事業報告会

パイロット事業の概要、モニターのパイロット事業参加前・参加後の変容を報告。日常的な自転車乗車の効果と継続の視点を会場と共有した。

④ 周辺環境の調査とアウトドアフィットネスプログラムの開発

ストレッチング、アウトドアヨガ、ノルディックウォーク等、サイクリングと合わせて推奨するプログラム開発を展開した。

「10年後の身体づくり」を打ち出しているパイロット事業の報告会への地域の関心が高く、アウトドアフィットネスプログラムの必要性、拠点整備の意義への共感を得ることができた。1年間の取り組みを通して、日常的な運動習慣がない住民への自転車乗車、アウトドアフィットネスプログラム提供の具体的なイメージが構築できたことが成果である。住民向け健康増進プログラムの開発に踏み出す中で、住民モニターと出会い、さらには双方向のやり取りによるつながりが構築できたことに手ごたえを感じている。引き続き、モニターの協力を得ながら、リーダー養成、コミュニティ形成につなぐことが目標である。

2017年度の取組 ★性別特性に配慮した住民向け健康増進プログラムの開発と実践

事業計画 p 79

① 休眠施設を利用したアウトドアフィットネスプログラムの提供とフォローアップ事業

② 理学療法士に加え、管理栄養士がチームを組み、運動と食の両輪で健康増進へアプローチ

③ 住民の運動習慣獲得に向けたトレーニングとリラクゼーションのサポートができる拠点化

4. フェイスブック「しまなみサイクリングパラダイス」運営管理事業 詳細報告書 p69~72

フェイスブック「しまなみサイクリングパラダイス」を運営。「しまなみ海道」の魅力を広く国内外にアピールするとともに、旬で最新の情報を積極的に提供し、誘客促進ツールとして活用した。

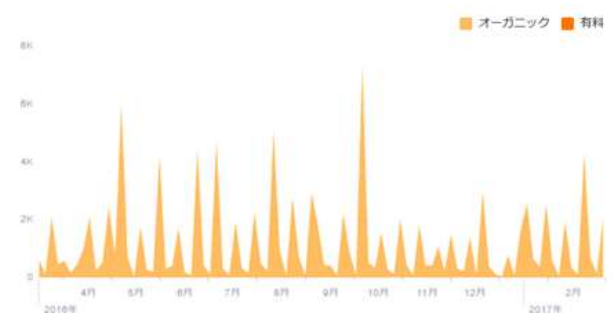
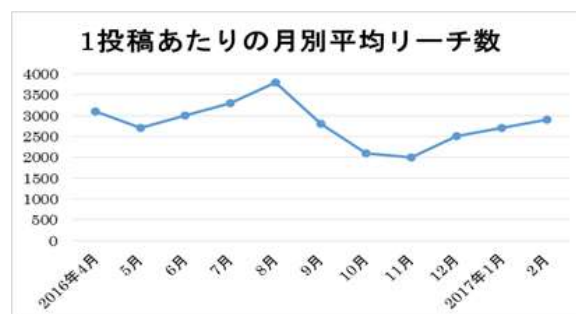
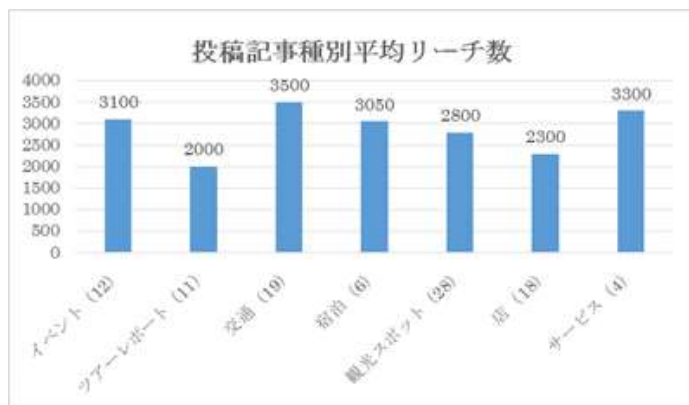
① カバー写真の更新

サイクリストの聖地としてアピール又は連想するものを使用した。



② 取材と記事投稿

サイクリングのリピーター獲得に結び付き、かつ、ユーザーとの繋がりを深められる記事を配信した。



③ 運営と分析

「いいね！数」や「リーチ数」が高い投稿を分析

し、投稿内容を検討した。「いいね！数（ファン数）」は2594名（2016年2月26日現在）。2016年4月2日の時点では2132名だったので、この1年間で462名のファンを獲得できた。緩やかだが着実に伸びつつけていることがわかる。「いいね！数」の増加に合わせ、各投稿記事のリーチ数も増えていることが推測できる。今後も魅力的な記事を投稿し続けていくことで、新規のファンを増やしていきたい。

ファン層は増加しているが、男女の内訳は前年とほぼ変わっていない。女性の共感を呼ぶ内容や10～20代の若者に興味をもってくれる投稿を増やしていくことが、今後の課題の一つである。また当ページはほぼ日本国内でシェアされているが、愛媛県内や広島県、大阪府など、近隣・関西エリアの利用者が多い。今後は首都圏など、遠距離エリアへのアピールの方法も含めて検討し、県外利用者の増加につなげていくことが課題である。

5. 中予（ちゅうよ）及び東予（とうよ）サイクルオアシス整備事業

気軽に立ち寄って休憩ができ、地域の人々との交流が図れるサイクリストの「おもてなし」の場所として「中予（ちゅうよ）及び東予（とうよ）サイクルオアシス」を整備した。世界各地のサイクリストを迎えている「しまなみ海道」で生まれた、自転車旅を支える「サイクルオアシス」の仕組みを、近隣エリア全体に広げることで、地域における交流人口の拡大や活性化を目指すビジョンを共有した。

① 選考・現地調査

現地へ出向き、応募者への聞取調査、空間の調査を行った。



② オアシスへの器材配備

- ◆バイクスタンド : MINOURA ストレージスタンド LEVEL-170H
- ◆空気入れ : スペシャライズド HP フロアポンプ英式アダプタ付き
- ◆工具セット : BIKE HND ツールボックス YC-728



③ オアシス運営に関する助言

器材整備等の際に、登録者へオアシス運営に関する助言や指導を行った。



2017年度の取組 ★中予（ちゅうよ）及び東予（とうよ）サイクルオアシス整備事業

事業計画 p 80

6. 「別子銅山産業遺産」を巡るサイクリング“遊学ラリー”開催事業

新居浜市はもちろん、県内外の参加を得て、サイクリングでぶらり遊学「産業遺産とものづくりのまち・にいはま」を開催した。参加者は4グループ・4コースに分かれ、「えひめ東予散策」ハンドブックに掲載された別子銅山遺産群や周辺の遊学スポットを自転車で巡った。各スポットでは「TOYO産業遺産ガイド」の解説を聞き、「投与の誇れる産業遺産（たから）ガイドブック」などを用いながら学びを深めることができた。



7. ランニングバイクによる啓発事業

未就学児を対象に自転車の楽しさを伝える遊び場「自転車ヒロバ」をオープンした。親子三世代が集う場づくりを行い、ヘルメット着用などの安全な自転車乗車を啓発した。

① 自転車ヒロバのオープン

(1) なみかた海の交流センター（主催）

夏休みのスタートと合わせ「自転車オープン」。賑わいづくりにつながる取組に地元の評価を得た。

日時：平成 28 年 7/24（日）～10/2（日）11:00～14:00 計 10 回

人数：幼児～小学校低学年 延べ 約 400 名

※「自転車ヒロバ」開催と合わせ、シーカヤック体験の企画。外部講師を招聘し、瀬戸内海の潮流を体感する「90 分体験ツアー」を提供した。

日時：平成 28 年 7/23（土）24（日）30（土）31（日）

人数：延べ 25 名

(2) イオンモール今治新都市

イオンモール今治新都市オープン 30 日祭の一環である「しまなみアウトドアフェスタ」への出張。

日時：平成 28 年 5 月 28 日（土）29 日（日）

人数：幼児～小学校低学年 延べ 約 80 名

(3) 新来島ドック

第 11 回新来島感謝祭への出張。

平成 28 年 10 月 1 日（土）

人数：幼児～小学校低学年 延べ 約 600 名

① しまなみランニングバイク選手権の開催

上記ヒロバ活動を訪れる幼児の目標となる選手権を開催。水軍の海城、潮流などの瀬戸内の海を体感できるサーキットコースを整備し、開催した。県外来訪も得て、大きな集客効果を発揮した。

日時：2016. 11/3（木・祝）9:30～15:00

人数：選手（2 歳～6 歳の未就学児）181 名

一般来場 700 名



未就学児に自転車の楽しさや交通規則の周知を体験型で学ぶ企画「レインボーハイランドカップ第3戦 しまなみランニングバイク選手権2017」を開催した。昨年度に引き続き、大会前日には、本コースを一部利用しての「自転車ヒロバ」を開催し、「松山市野外活動センター」への来場を促した。大会当日は県内外203名の選手が芝生広場に集合した。今回は愛媛県内からの参加者が増加しており、愛媛県内でのランニングバイクの認知度向上を感じた。リピーターの参加も多く、2回目の出場、3回連続の出場という選手がおり、スタッフ一同、子ども達の成長を感じられる大会となった。芝生広場の全面を活用し、大きな山あり、トンネルありの冒険心をくすぐる特設コースを設置。みかんの障害物、水軍ののぼり旗などは子ども達に人気で、笑顔いっぱいであトラクションを楽しむかのようにレースに出走する様子が見られた。レースではそれぞれが精一杯の力を出し切って、ゴールを目指した。子ども達の力走を応援する保護者にも力が入り、大きな声援、拍手で会場が一体となった。

自然の中で様々な体験活動ができる施設「松山市野外活動センター」の空間を活用し、三世代が交流しながら、アウトドアレジャー・スポーツに親しむ時間を共有できたことが有意義だった。春休み前の閑散期の利用に資する取り組みとして定着しつつあることを感じた。

日時:2017.2/26(日)10:30~15:30

人数:選手(2歳~6歳の未就学児)203名・一般来場800名
(年齢別のレース)



(ステージイベント・ブース運営)



2017年度の取組 事業計画 p81

★なみかた海の交流センター管理運営事業

8. 地域限定旅行業「ツアー販売」

地域資源の活用、住民との交流を促進するため、ガイドツアーを催行。自転車旅行者のニーズに対応するため、宿泊や交通を組み合わせた着地型旅行商品を造成し、提供した。

① 募集型旅行

1. まちなか移住交流推進事業
 2. まちなかサークルツーリズム推進事業
- 参照。

② 受注型旅行

個人オーダーメイドツアー、社員旅行等の団体オーダーメイドツアーを企画、主催した。

○内容：しまなみでの自転車の個人旅行を個別にコーディネートした。

実績：平成28年4月6日(水) 4名(株式会社アトレ/社員旅行)

平成28年5月11日(水) 2名(個人旅行/海外からのペア旅行)

○内容：自転車まちづくりの現場をナビゲートする旅行を個別にコーディネートした。

実績：平成28年5月26日(木) 1名(北海道常呂郡置戸町/自治体職員)

平成28年6月8日(水) 3名(信越自然郷アクティビティセンター)

平成28年7月19日(火) 5名(沼津市/自治体職員)

平成28年11月15日(火) 9名(国土計画協会地域連携推進団体)

③ 委託販売

○JTB しまなみ海道タンデム自転車ツアー

内容：来島海峡大橋、大島での島グルメを楽しむツアーのアテンド。(関西圏からの来訪者中心)

実績：平成28年9月18日(日) 4名

④ ガイド派遣・オペレーション

旅行会社主催のツアーへのガイド派遣。

○庄交トラベル株式会社

内容：しまなみ海道 2 泊 3 日のサイクリングツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成 28 年 4 月 4 日（日）・5 日（月）・6 日（火）/8 名

○毎日新聞旅行株式会社

内容：しまなみ海道 1 泊 2 日のサイクリングツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成 28 年 4 月 7 日（水）・8 日（木）/7 名

○NPO 法人ヘルスプロモーションネットワーク

内容：しまなみ海道体験サイクリングツアーへのガイド派遣（ツアー補佐）

実績：平成 28 年 8 月 26 日（金）/20 名

○株式会社トラベルギャラリー 旅の本棚

実績：平成 28 年 11 月 5 日（土）・6 日（日）/12 名＋添乗員 1 名

○愛媛県社会福祉協議会 仲間と走るプランニング講習会へのガイド派遣

実績：平成 28 年 11 月 16 日（水）/18 名

○株式会社日本旅行 台湾サイクリング関係メディア誘致事業へのガイド派遣

実績：平成 29 年 1 月 17 日（火）18 日（水）19 日（木）/5 名

自転車を解体せず、そのまま車内に持ち込める「サイクルトレインしまなみ号」の受付事務。

○四国旅客鉄道株式会社 ワーブ松山

内容：予約受付・JR 波止浜駅オペレーション

実績：春 20 回・秋 25 回

2017年度の取組 ★自主事業「地域限定旅行業」
★まちなか移住交流推進事業

事業計画 p 82

9. 宿泊業「ゲストハウス シクロの家」

「サイクルオアシス総合拠点」として運営するゲストハウス。「JR 今治駅」前の立地条件から、今治市の玄関口としての機能、島しょ部から今治市臨海部に拡充する「しまなみサイクルオアシス」の中継点として、サイクリストを中心に多くの旅行者にご利用いただいた。

① 自転車旅行の拠点としての機能

「セルフバイクメンテナンスルーム」ではスパナ、アーレンキー、タイヤレバーなど修理工具を備え、タイヤチューブなどの販売も展開。ゴールした自転車旅行者にはシャワー、洗濯ができる設備が喜ばれた。またコインロッカーに入らない自転車、手荷物の一時的預かりのニーズに対応できるよう、スタッフが常駐した。



② リビングでの情報提供

今治城の城下町を基礎に、今治港を擁する港町として発展してきた今治市中心部に点在する資源を丁寧に発掘し、旅人の伝えるガイダンスの機能強化に取り組んだ。手づくりマップを更新し、来訪者のまち回遊を促進した。

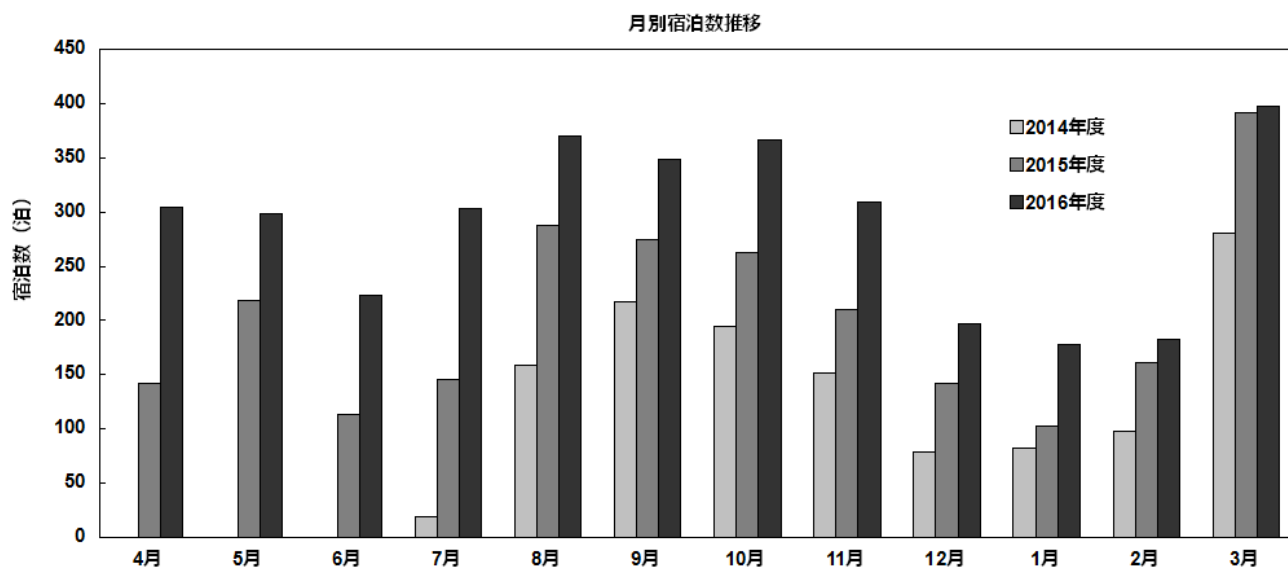
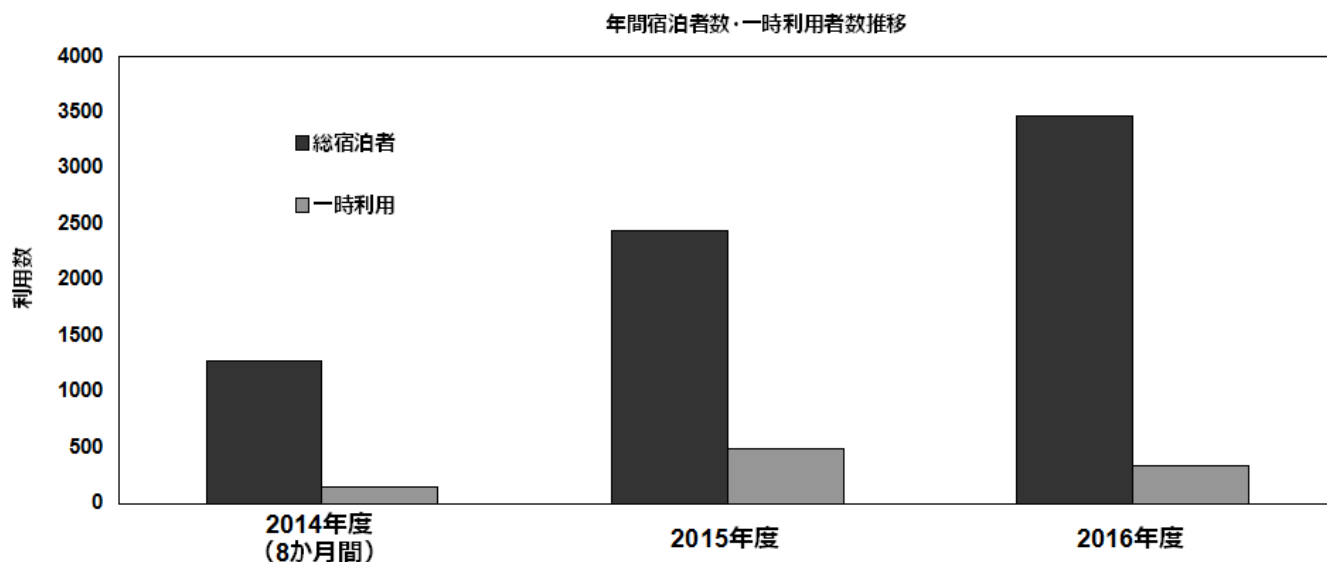
③ まちなか移住交流促進事業の展開

お試し居住空間の提供など（１． まちなか移住交流推進事業）参照。

④ 利用者の実際

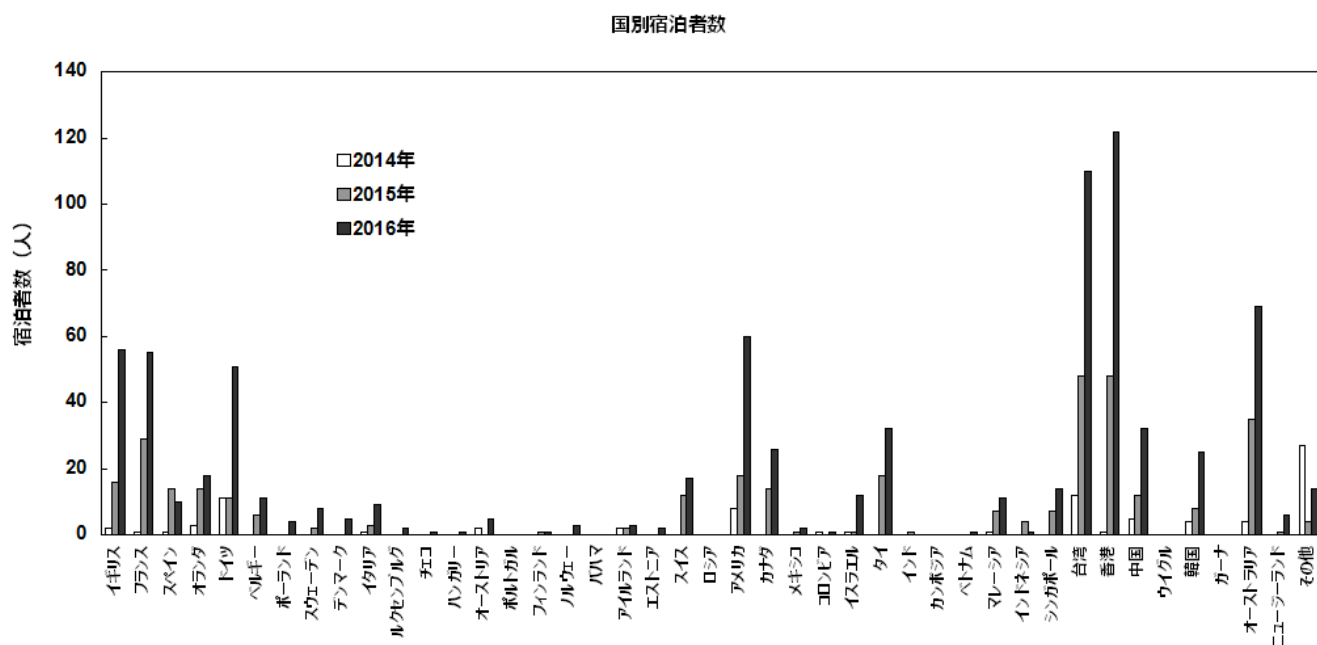
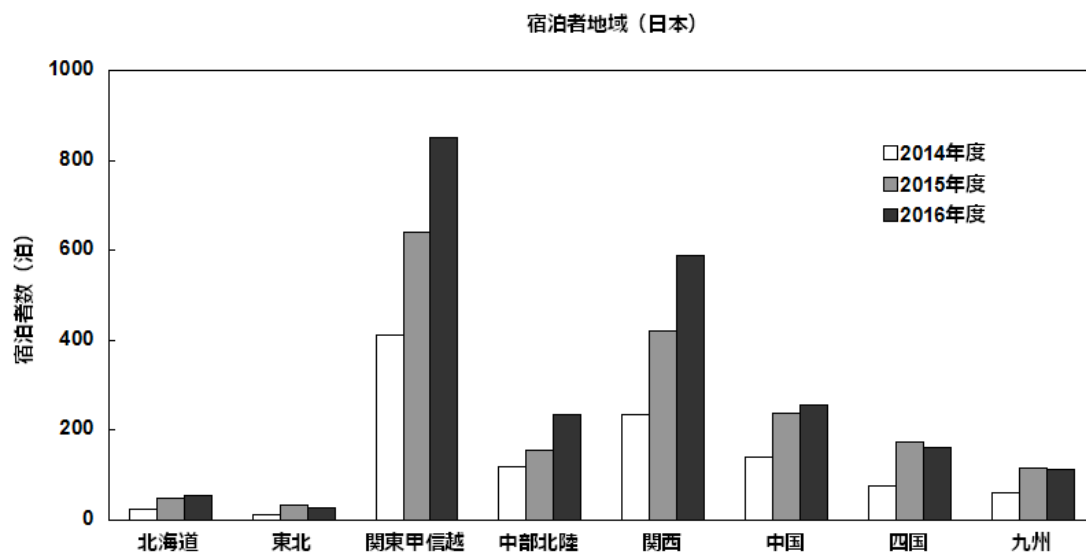
ゲストハウス宿泊者数は3,478名（2014年度1,281名、2015年度2,449名）、サイクルオアシス総合拠点としての一時利用（カフェ利用を含む）は347名（2014年度146名、2015年度499名）となった。

今年度は、しまなみ海道の旅行者数の増加やシクロの家の認知度の向上により、過去最高の宿泊者数を記録した。年間の稼働率は71.5%（前年度49.4%）。



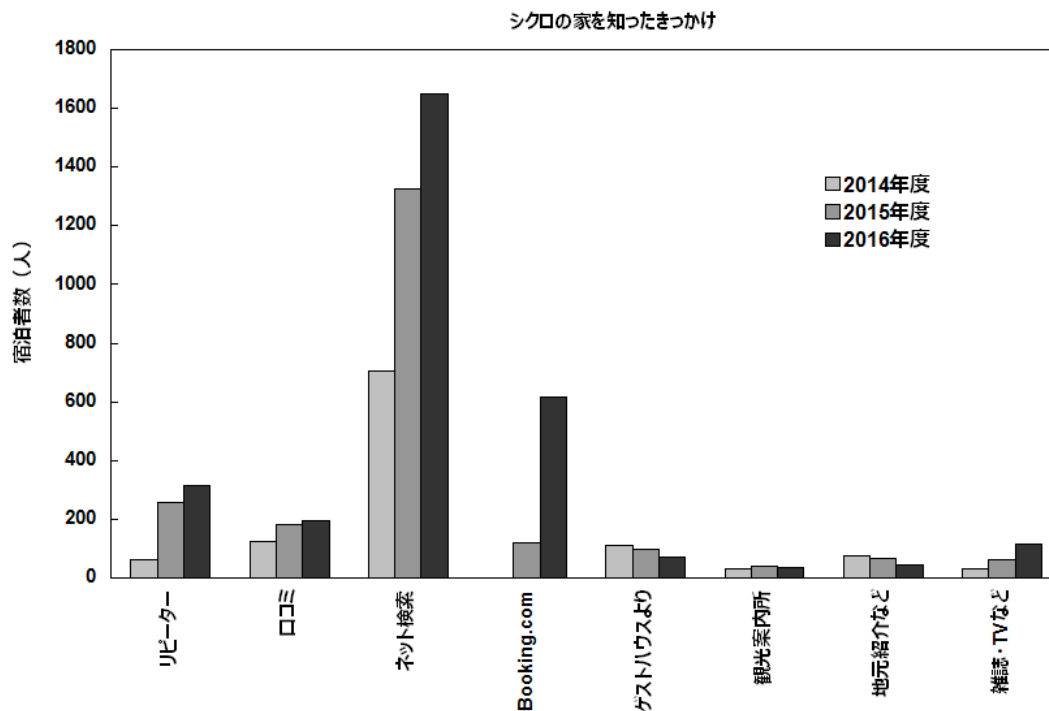
2015年度に比べ、2016年度は年間を通して一定の宿泊者数を維持できた。閑散期（12月～2月）も稼働率40～50%を超えた。

[宿泊者地域]



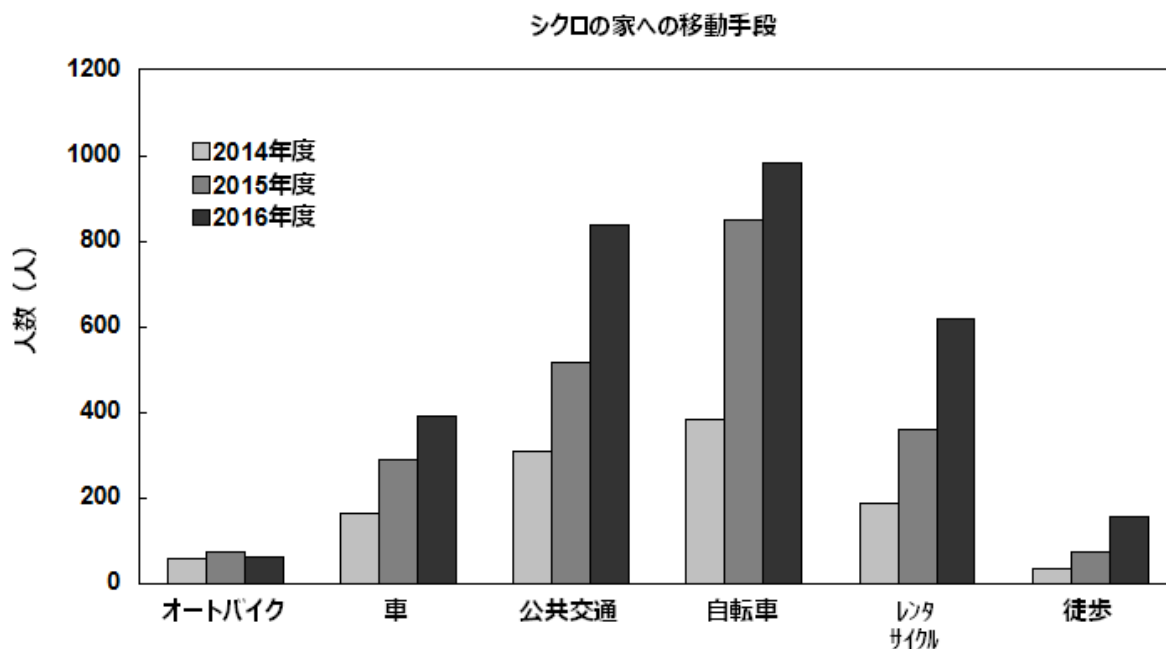
日本国内では近県に留まらず、遠方からの旅行者も多く、海外では欧州・アジア圏からの旅行者に当施設をご利用いただいた。来訪目的は主にしまなみ海道サイクリングであった。

[宿泊者予約経路]



宿泊者の約 70%がインターネット検索や予約サイトを経由しての予約だった。ホームページの SEO 対策強化や SNS の活用などが宿泊者数の増加につながった。また、海外旅行者の利用率の高い予約サイト「Booking.com」の活用により、海外旅行者を効果的に集客できた。

[宿泊者移動手段]



自転車（マイ自転車）での来訪、レンタサイクル利用者など、サイクリング目的での利用者が多い。「公共交通」での来訪者の中には翌日以降等にサイクリングを楽しむ旅行者が含まれるため、当施設の利用者は圧倒的にサイクリング目的であることが推定される。

10. 物品販売業

①商品開発

「ゲストハウス シクロの家」・「なみかた海の交流センター」の機能強化等を見据え、商品展開のバリエーションを多様化する。

○しまなみの波・山・そして時間を感じるオリジナル商品の開発

○シクロティストを感じる他社商品の委託販売を検討

② 商品販売

当会の顔となっている「島走」商品の戦略的販売（「島走」の一部は当会の商標）

「島走 BOOK」「島走 MAP」「島走 T シャツ」の販売数を高める。

※販売数を伸ばし、製造コストを抑え、収益につなぐ。

○店頭販売の実現

○インターネットショッピングの立ち上げ

11. なみかた海の交流センター管理運営事業・シクロカフェ

近代遺産としての価値を有する焼き玉エンジンの展示等、海事資料館機能を有する施設の交流スペースを活用し、「市民と自転車旅行者の交流空間」として「シクロカフェ」のオープン、各種プログラム提供を進めた。



展示機能、飲食提供に加え、各種アクティビティプログラム提供による集客を図ってきた。一定の効果はあるものの、安定した収益源確保には至っておらず、持続的な運営のビジョンが描けていない。サイクリング途中の休憩・ランチタイムを過ごせる居心地のいい空間とサービスの創出と合わせ、宿泊機能を加味した運営を行うことが目標である。

12. 自転車まちづくり

①講師派遣

しまなみ自転車振興等に関することについて、依頼に基づき、講師を派遣した。

平成 28 年 6 月 1 日(水)	びわ湖守山・自転車新文化推進協議会	自治会や自転車関係団体、地元企業や銀行で構成する協議会立ち上げの総会に先立ち講演。自主的・主体的な活動と自治体との連携で進める活動の重要性を紹介、共有した。
平成 28 年 7 月 5 日（火） ※総会参加	国土計画協会地域連携推進団体協議会	地域連携をベースに活動を進める団体のネットワーク会議の世話人としての参加。地域を超えた連携を促し、それぞれの団体の事業推進に資することを確認。
平成 28 年 9 月 7 日（水）	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会	愛媛県が力を入れる自転車による観光振興の取組を紹介。中でも健康増進、仲間づくりなど、暮らしを豊かにする自転車ライフについて紹介する講義を行った。
平成 28 年 9 月 8 日（木）	特定非営利活動法人瀬戸内海研究会	瀬戸内海の環境保全、地域づくりなどの実践事例を通して、瀬戸内海の環境保全と適正な利用を考えるフォーラムに登壇。女性目線の海村地域づくりを意見交換した。

平成 28 年 9 月 29 日 (木) 10 月 7 日 (金)	愛媛県立宇和高等学校	愛媛県が力を入れる自転車による観光振興の取組、愛媛マルゴト自転車道での受入体制などを紹介。南予地域にも広がる住民とサイクリストとの交流の可能性を意見交換した。
平成 28 年 10 月 17 日 (月)	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県歴史文化博物館で開催する「自転車博物館」に合わせて開催された講演会講師を担当。身近な乗り物、自転車の歴史を語り合いながら、旅と自転車の魅力を紹介した。
平成 28 年 11 月 22 日 (火)	沼津市・狩野川周辺サイクル事業推進協議会	狩野川エリアでの新たな自転車観光を提案するにあたり、地元住民、地元事業者の自転車に関する理解を深めることを目的にした講演会の基調講演、パネラーを担当した。
平成 28 年 11 月 24 日 (木)	愛媛大学教育学部	教育学部の学生の支援の一環として、多様な分野の社会活動等の取り組みを聴講する講座を担当。自主的、自発的な N P O 活動について紹介した。
平成 28 年 11 月 26 日 (土)	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	2016 年度四国ブロック・ユネスコ活動研究会においてパネラーを担当。地域の課題を解決するプログラムとして活動を紹介。ユネスコ運動に関心をもってもらう議論へつなげた。
平成 29 年 1 月 20 日 (金)	宮崎市都市整備部	第 5 回宮崎市自転車シンポジウムにパネラーとして登壇。自転車の魅力について考える意見交換を通して、自転車による地域活性化を会場と共有した。
平成 29 年 2 月 2 日 (木) 3 月 8 日 (水)	環境省中国四国地方環境事務所	日常生活のあらゆる場面に自転車を活用する施策の意見交換会に参加。「bikebiz (バイクビズ) 推進フォーラム」では自転車と健康を切り口にサイクリングの楽しみ方を提案した。
平成 29 年 2 月 9 日 (木) 2 月 14 日 (火)	愛媛県 東予地方局 中予地方局	「東予・中予サイクルオアシス」の整備に合わせ、担い手を対象とした運営者会議へのアドバイスをを行った。サイクリストとの交流の空間づくり、サービス提供について意見交換した。
平成 29 年 2 月 19 日 (土)	愛媛県経済労働部 観光物産課	サイクリスト観光サービス向上事業研修会において、自転車によるまちづくりの活動を事例発表した。ガイドツアーやゲストハウス運営の取り組みを紹介した。
平成 29 年 3 月 8 日 (水)	中国四国地方環境事務所	bike biz を推進する環境省の取り組みとして、一般市民に自転車乗車を促すフォーラムを開催。しまなみ海道でのツーリズム推進を事例にサイクリング人口拡大へのビジョンを紹介した。
平成 29 年 3 月 28 日 (水)	静岡県文化・観光部スポーツ局	サイクリストを受け入れる側（商店、観光施設、宿泊施設など）を対象としたフォーラムに登壇。「サイクリストの受入態勢の充実による地域経済の発展」をテーマに講演した。

②視察受入

自転車を活用した地域活性化などについて、事前予約制で個別相談、視察を受け入れた。

平成 28 年 4 月 22 日 (金)	北海道美唄市	人口の流出、高齢化などの課題を抱える町において、サイクリングによる交流人口拡大施策を進めるにあたってのヒアリング。住民参画型、官民協働の取り組みを紹介。
平成 28 年 6 月 29 日 (水)	中津市役所耶馬溪観光室	鉄道跡のサイクリングコースを基軸に自転車まちづくりを進める施策展開への助言。しまなみ海道を核に周遊型ツアー、交流拠点運営の考え方と手法を紹介。
平成 28 年 7 月 19 日 (火)	沼津市	自転車による観光振興のヒントを求めてのご来訪。サイクルツーリズム振興の可能性について、意見交換。住民参画型のまちづくり活動の意義を共有。

平成 28 年 8 月 28 日 (日)	手賀沼アグリビジ ネスパーク事業推 進協議会	県境をまたぐエリアの観光振興の取組のヒントを求めている視察。尾道市、今治市での連携、住民参画の手順やあり方について、しまなみの事例を紹介した。
平成 28 年 10 月 18 日 (火)	志賀島・海ノ中道 サイクルツーリズ ム協議会	自転車による観光振興のヒントを求めているご来訪。住民参画型のサイクルオアシス整備、総合拠点としての「シクロの家」の運営など、自転車まちづくりの可能性を意見交換した。
平成 28 年 10 月 28 日 (金)	静岡県スポーツ交 流課	東京オリンピック自転車競技を控える静岡県。「静岡県サイクルスポーツ協議会」の組織化、受入態勢指針策定等を前にしまなみの取り組みを事例として共有。
平成 28 年 10 月 31 日 (月)	愛媛県経済労働部 国際交流課	韓国旅行会社の視察団への情報提供。しまなみ海道・とびしま海道をはじめ、愛媛県本土へ続く多様なルートを紹介。マップなどを通して、地域資源を堪能する自転車旅行の構築を提案した。
平成 29 年 1 月 23 日 (月)	オホーツク地域サ イクリングブラン ド化推進事業	オホーツク地域、知床地域においてサイクリングサポートを進める団体へのしまなみ実践の紹介。(株)JTB北海道オホーツク支店北見営業所からの参加も交え、地域ガイドンスした。
平成 29 年 2 月 2 日 (木)	大阪商業大学 総 合経営学部	まちづくり活動の調査の一環としてのヒアリングを対応。当会の設立の経緯、事業運営等の具体的な組織運営について説明。人材育成、財政基盤等のビジョンを紹介した。
平成 29 年 2 月 14 日 (火)	NPO 法人みやこ ラボ	コミュニティビジネス(ソーシャルビジネス)の観点から当会の取り組みを紹介。地域課題を解決しながら、新たな価値を創出する活動の持続可能性について課題や工夫を教示した。
平成 29 年 3 月 7 日 (木)	国土交通省道路局 環境安全課道路環 境調査室	広島県尾道市が進めてきた社会実験尾道市フォローアップ調査の一環としての視察受入。サイクルオアシスの整備を基軸に受入態勢整備を進めてきた活動を紹介した。
平成 29 年 3 月 16 日 (木)	仙台市都市整備局 東西線沿線まちづ くり課	仙台市のまちづくり活動として自転車を活用する施策への参考となる活動を紹介。官民の役割分担や住民主体の活動の啓発について意見交換した。
平成 29 年 3 月 18 日 (土)	経済産業省北海道 経済産業局	北海道をフィールドに自転車による地域活性化を検討する施策への提言。地域間連携、インフラ整備、官民連携についてしまなみの事例を提供した。
平成 29 年 3 月 22 日 (水)	(株)URリンケージ 販売計画部 施設 立地調査課	自転車活用推進法案の成立(2016年12月)に伴い、各地のまちづくりに自転車の活用を検討しするための事例収集としてのヒアリング受入。しまなみの自転車まちづくりを紹介した。

8. 審議会・委員会・意見交換会への参加

しまなみの自転車振興や関係機関との連絡調整等に関する会議等に参加した。

平成 28 年 4 月 18 日 (月) 12 月 1 日 (木)	今治市中心市街地再生協議会 今治市商工振興課主催	今治市中心市街地再生基本計画第 2 期の推進に関わる検討。定例総会への参加。
平成 28 年 7 月 5 日 (火)	一般社団法人国土計画協会	全国で高速道路などを利活用した地域づくりに取り組み団体のネットワークを推進する会議の世話人として参加。
平成 28 年 7 月 29 日 (金) 9 月 1 日 (木)	愛媛県今治土木事務所	自転車の安全走行に資する愛媛県・今治市などの施策を共有する会合への参加。民間の立場で実施している事業の共有も合わせて実施。

平成 28 年 9 月 29 日 (木) 11 月 8 日 (火) 平成 29 年 2 月 16 日 (木)	今治市観光課	今治市島しょ部「道の駅」の指定管理者選定審議会委員の委嘱により、各施設の指定管理者選定の審査員として参加。
平成 28 年 10 月 8 日 (土)	今治市中心市街地再生協議会 今治市商工振興課主催	第 2 期再生基本計画により開所するまちなか活性化サロン「ぷらっと」開所式への参加。

10. 会議に関する事項について

(1) 総会

① 第7回通常総会

日時:平成28年5月21日(土)13:30～ 会場:なみかた海の交流センター

議題:○2015 年度事業報告・収支決算報告 ○役員の選任 ○2016 年度事業計画・収支予算の報告

(2) 理事会

第1回 日時:平成28年4月29日(金)12:30～ 会場:なみかた海の交流センター

議題:○2016 年度事業計画・活動予算の件 ○役員・有給役員の件 ○スタッフ給与の件
○総会に付すべき事項の件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 4 月の状況と 5 月の目標

第2回 日時:平成28年5月21日(土)12:30～ 会場:なみかた海の交流センター

議題:○代表理事選定の件 ○今治市中心市街地再生事業応募の件 ○各事業の進捗の件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 5 月の状況と 6 月の目標

第3回 日時:平成28年6月30日(木)12:30～ 会場:今治市民活動センター 大会議室

議題:○ふるさと納税体験プラン提案の件 ○別子銅山事業受託の件 ○オアシス整備事業受託の件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 6 月の状況と 7 月の目標

第4回 日時:平成28年7月28日(木)12:45～ 会場:今治市民活動センター 大会議室

議題:○各事業の進捗状況確認 ○2017 年度ツアーの検討協議

★スタッフミーティング:ゲストハウス 7 月の状況と 8 月の目標

第5回 日時:平成28年8月19日(金)19:00～ 会場:今治市民活動センター 大会議室

議題:○電子書籍化の件 ○島走マップシリーズの件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 8 月の状況と 9 月の目標

第6回 日時:平成28年9月26日(月)12:45～ 会場:今治市民活動センター 中会議室

議題:○サイクルオアシス中予・東予受託の件○スミセイ助成事業応募の件○各事業の進捗状況確認の件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 9 月の状況と 10 月の目標

第7回 日時:平成29年1月10日(火)12:30～ 会場:今治市民活動センター 中会議室

議題:○なみかた海の交流センター活用の件○まちなか移住交流推進事業の件

★スタッフミーティング:ゲストハウス 10 月以降の状況と2月の目標